

## 放流水の化学的酸素要求量（COD）の基準値超過について

山口市大浦一般廃棄物最終処分場（平成29年4月供用開始）において、平成29年11月21日（火）に実施した放流水（処理水）の水質検査で化学的酸素要求量（COD）の検査値が基準値90mg/ℓに対して94mg/ℓを検出しました。

市民の皆様方には、このような事態を招いたことに関し誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます。

今後、このようなことが二度と発生しないよう、至った原因を教訓とし、継続的に業務の改善や職員の意識向上に取り組むとともに、適正な施設管理の運営に努めてまいります。

### 1. 事案の経緯及び概要

---

平成29年8月から月1回の水質検査を実施し、10月までの検査結果は基準値を下回る数値で安定していました。

しかし、11月の水質検査を実施した翌日に、検査機関からCOD基準値超過の速報連絡があったため、外部への放流を緊急停止しました。

### 2. 原因

---

運転開始初期に起こる浸出水（処分場内の散水により廃棄物の汚れを含んだ水）の水質・濃度変化に対する管理体制及び水質の検査体制が不十分であったことにより、必要な水質調整（薬剤等の注入）が間に合わなかったことが原因です。

### 3. 実施した改善策

---

浸出水の初期段階に起こり得る水質悪化を的確に把握し、その兆しが見える前の段階で水質調整を実施するため、次のとおり監視及び検査体制を強化しました。

- （1）COD濃度の判断方法を比色による目視判断から簡易測定器具による数値判断にしました。
- （2）水質管理委託業者による巡回点検の頻度を高めました。
- （3）検査機関による水質検査の頻度を高めました。

### 4. 放流再開後の運転状況について

---

平成30年2月21日（水）から浸出水処理施設の試験運転（水質調整）及び水質検査を行い、COD値が基準値を十分下回っていることが確認できたため、3月15日（木）から放流を再開しました。

なお、放流再開後は、設備・機器ともに正常に稼動しており、放流水の水質も基準値以下で安定しています。